

兵庫県のカッコウムシ (兵庫県甲虫相資料 98)

高橋 寿郎*

日本産カッコウムシ科の研究は、1892年、Lewis, G. の "On the Japanese Cleridae" (Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 6, Vol. X: 183-192) によって、4新属、14新種、8種が記載されたのに始まる。次いで、1931年、河野広道博士が、"日本産郭公虫科" と題する論文を発表され (Trans. Sapporo. Nat. Hist. Soc. XI: 3: 134-146), そのなかで3新種2未記録種を記載されると共に、当時の日本産60種の分布を発表された (したがって樺太、朝鮮、台湾産も含まれている)。1963年、中根猛彦博士は、原色昆虫大図鑑、第二巻 (甲虫編) のなかで、29種を図説しておられる。他にも部分的な論文は出ているが、その後、総括的な報文はないように思う。現在の日本産は、中根博士に従うと約50種となっている (1972)。

兵庫県産の本科の報告も、残念ながら今迄断片的なもの以外見当たらないように思う。本科のものは、普通肉食で枯木などにいる。また、食品害虫もいるのでもっとよく調べられているのかと思ったが、兵庫県下だけをみても案外個体数が採れなくて、その産出状況がよくわかっていないグループである。まだまだ調査不十分であるが、現時点でわかっている兵庫県産の種をまとめておきたい。なお、本科のもので生活史のわかっている種は殆どないようであるが、一応わかった範囲内で整理された伊賀氏の報文 (1950) は貴重である。

兵庫県産の本科のものは、すべて中根博士により図説されているので、種についての形態に関する記事は全部省略した。

Family Cleridae カッコウムシ科

1. *Tarostenus univittatus* Rossi シロオビカッコウムシ
木材害虫を捕食するとなっているが、あまり産地が知られていない。
産地：川西市大和 [仲田, 1978]** 神戸市鳥原 (lex., 19-VI-1961).
養父郡氷ノ山 (lex., 21-VII-1958).
2. *Korynetes coerulens* DEGEER ルリホシカムシ
Korynetes, *Necrobia* 属に属する所謂ホシカムシ属のものは、動

* 現住所 〒652 神戸市

** 産地で [] のものは文献からの引用、() のものは筆者採集もしくは恵与を受けたもので現在筆者標本所有を表わす。

物性乾物・骨・骨粉・ハム・ベーコン・動物の死体等を加害するというのであるから目につきそうなものであるが、本種は全く見られない。県下の記録も次のものがあるだけで、産出状態のわからない種である。
産地：神戸市御影〔関，1933〕。

3. *Necrobia ruficollis* FABRICIUS アカクビホシカムシ
乾燥動植物質を害する種とのことである。
産地：氷上郡〔山本，1958〕。出石郡但東町中藤〔高橋，1963〕。
4. *N. rufipes* DEGEER アカアシホシカムシ
乾燥動植物質を害する種であるという。この種は神戸市内でも時々採集できるが、一般的には少ないようである。
産地：川西市大和〔仲田，1978〕。神戸市生田（1ex., 7-VI-1961, 1ex., 6-VII-1961），鳥原（1ex., 15-VII-1961）。氷上郡〔山本，1958〕。
5. *Opetiopalpus morulus* KIESENWETTER ムネアカチビカッコウムシ
本種も次の記録を知るのみである。
産地：氷上郡〔山本，1958〕。
6. *Cladiscus obeliscus* LEWIS ホソカッコウムシ
G. Lewisにより，長崎，神戸・摩耶山，福島産の標本で新種記載された（1892）。7月下旬頃に現われると記している。県下ではあまり記録がない。
産地：川西市横地〔仲田，1978〕。Maiyasan near Kobe〔Lewis, 1892〕。養父郡氷ノ山（1ex., 27-VII-1956）。美方郡扇ノ山〔高橋，1975〕。
7. *Tillus igarashi* KŌNO イガラシカッコウムシ
本種も県下での記録は大変少ない。神戸市内の鳥原では叩き網で採集したが，ハムシダマシにやや似ているので今迄見逃されていたのではないだろうか。
産地：神戸市鳥原（1ex., 10-VI-1980）。三田市〔三木，1977〕。
8. *Tilloidea notata* KLUG ネアカヒメカッコウムシ
本種も県下での記録は殆どない種である。
産地：川西市大和〔仲田，1980〕。加西市畑（1ex., 13-VII-1974）。
9. *Neoclerus ornatus* LEWIS サビモンカッコウムシ

次の記録を知るのみ。

産地：美方郡扇ノ山〔辻，岸田，1972〕。

10. *Opilo carinatus* LEWIS キオビナガカッコウムシ
山地性の種のように、県南部平野部での産が殆ど知られていない。
産地：神戸市六甲山 (lex., 21-VII-1958)。宍粟郡福知溪谷 (lex., 3-VI-1975, lex., 16-VI-1975, M. Yuma leg.), 音水 (lex., 4-V-1972, lex., 11-VI-1972, 2exs., 13-V-1973, lex., 15-VII-1973), 坂ノ谷 (lex., 9-VI-1973, lex., 22-VII-1979), 養父郡氷ノ山 (lex., 27-VII-1956)。
11. *O. niponicus* LEWIS ムナグロナガカッコウムシ
前記種によく似ているが、こちらの方が少ないようである。
産地：川辺郡猪名川町杉生新田〔仲田，1979〕。宍粟郡音水 (lex., 15-VII-1973)。
12. *Thamasimus lewisi* JACOBSON アリモドキカッコウムシ
薪や倒木上に見られ、木材害虫を捕食する種である。あまり多く見られない。
産地：川辺郡猪名川町槻並〔仲田，1979〕。神戸市御影〔関，1933〕，丹生山 (lex., 15-V-1955)。夕可郡加美町三谷 (lex., 29-IX-1974)。氷上郡〔山本，1958〕。
13. *Stigmatium nakanei* IGA クロサビカッコウムシ
少ない種のようなものである。
産地：養父郡氷ノ山 (lex., 27-VII-1957, S. Hisamatsu, det.)。
14. *S. pilosellum* GORHAM ダングラサビカッコウムシ
枯枝や薪に集まる。初夏に出現するといわれているが、それほど多くいる種のようなではない。
産地：川西市笹部〔仲田，1978〕。相生市三瀧山 (lex., 3-V-1974)。養父郡関宮町〔伊賀，1949, 1955〕。
15. *Tenerus hilleri* HAROLD ツマグロツツカッコウムシ
県下ではやや山地性の種のようなものである。余談ではあるが、大阪市大正区泉尾の材木間屋の多くある河筋では、本種が多く採集できる。材木について運ばれてきているのであろう。
産地：出石郡出石町伊豆〔高橋，1963〕。養父郡氷ノ山 (lex., 27-

VII-1956). 美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕.

16. *Teneroides maculicollis* LEWIS キムネツツカッコウムシ
割合いるようだが, 所謂る山地性の種のように, 平野部での産は殆ど知られていない.

産地: 川西市笹部〔仲田, 1978〕. 宍粟郡音水(1 ex. 20-VII-1959).
赤西(1 ex., 23-VI-1979). 氷上郡〔山本, 1958〕. 養父郡
氷ノ山〔伊賀, 1950〕, 大屋町田淵山(1 ex., 5-VIII-1975,
M. Yuma leg.). 美方郡香住〔伊賀, 1950〕.

以上, 僅か16種の県下での記録であり, まだまだ調査不充分な点が多い. 今後共調査を続けていきたいと思っている.

短報 ヤマサナエがウスバシロチョウを捕獲

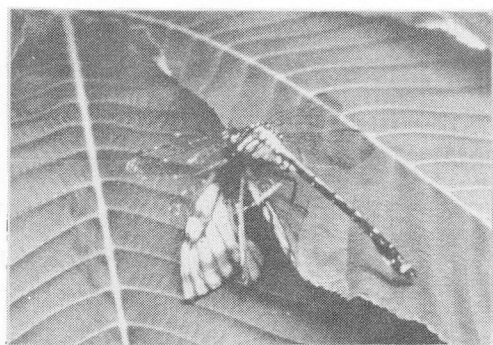
足立 義弘*

1981年6月14日, 午後2時頃, 関宮町葛畑で, ヤマサナエが飛翔中のウスバシロチョウを捕獲するのを, 同行の木下氏と共に目撃した.

ヤマサナエは, 捕獲後すぐに, 近くの草の葉上に止まった. しかし, 我々が近づいたために飛びたち, さらに4~5 m離れたトチの葉上に静止した.

確認のため採集したところ, ウスバシロチョウは背部から前胸にかけて咬みつかれていた.

トンボがチョウを捕獲するといった報告は少ないようであり, 筆者自身, 目撃したのは初めてであった. ウスバシロチョウ成虫の天敵としてモリスストアップできることの意味も含めて, ここに報告する.



ウスバシロチョウを捕えたヤマサナエ

*現住所 〒616 京都市右京区花園一条田町6-12 双美園